

第3種郵便物認可

# コロナが変えたくらしの姿

## 北大公開講座から

新型コロナウイルスの感染の有無を調べる唾液によるPCR検査の開発は、「失敗」がきっかけでした。2020年4月、北大病院の患者がほとんど間違っ出して唾液が、陽性反応を示したのです。私は疑問に思い、海外の論文を調べたら「新型コロナウイルスは口から感染する」という報告を見つけた。唾液でも検査できるのではと考えました。

証明しようと研究を始める。多くのメディアが取り上げ、日本医師会や国も動き、期待の高さを感じました。開始から25日目に、鼻粘液と唾液の診断一致率が97%だったという論文を発表。厚生労働省は唾液のPCR検査を認めました。

その後、無症状の人の唾液検査の有効性を調べるため、国際空港の入国者らのデータを集め、唾液でも鼻粘液と同等に検査できることが分かりました。唾液のPCR検査は無症状の人も対象になりました。研究の成果を、国がたまたに政策として取り上げ、本当にすこいスピード感でした。

世界に同時拡散さて、新型コロナは人につりやすく進化しています。最初に中国の武漢市で広まった株からオミクロン株まで、感染力が強いものが弱いものを淘汰していくのです。

## 第2回 唾液検査の開発秘話から読み解く新型コロナの今後

# 「清潔さ」だけでは防げず

### 風邪の原因となるコロナウイルス

＊風邪の10～15%は4種類のコロナウイルスが原因

ウイルス名	発見	1889～95年にパンデミックを起こした「ロシア風邪」の原因の可能性?
229E	1960年代	〃
OC43	〃	〃
NL63	2000年代	〃
HKU1	〃	〃

### 日本人の「ファクターX」

＊過去の頻繁な風邪の流行の経験が、狭い国土に密集して暮らす日本人の清潔さを生み出した

日本人の新型コロナ感染が少なかった「ファクターX」の正体かもしれない

＊感染力が圧倒的に強いオミクロン株は「ファクターX」をしのいだ

### ワクチンの助けが必要

(豊嶋崇徳さんの公開講座のスライドを基に作成)

豊嶋さんの新型コロナ唾液検査の開発については、昨年12月22日の「コロナ唾液検査 84日間の挑戦」で詳報しています。「どうしん電子版」でも読むことができます＝QRコード。全文を読むには会員登録が必要です。



変異して、ほとんどの人が軽症で済む風邪のコロナとして定着したとみられます。新型コロナも最初に比べて、だんだん弱毒化しています。もっと毒性が弱くなると、風邪の原因となるコロナとして定着する可能性があると思います。

その観点から、水際対策とは何だったのかを見ていきたいと思います。北海道は海に囲まれています。北海道は海に囲まれている患者のデータを調べると、本州のコロナ株の変遷と数日の遅れしかありません。飛行機を通じて広まったのでしよう。

### 次への備え

私は今現在、唾液などを使わずに15分ほどで陽性や陰性だけだて、ウイルス株も判別できる方法を研究しています。次の変異株に備え、もっと速く判定できる検査計をつくるのが大切だと考えています。

豊嶋 崇徳教授 (構成・鈴木雄二・写真・大島拓)

次回河原純一郎教授の「心理学から見たマスク生活のコミュニケーション」。7月6日に掲載します。

記事で紹介した「北大公開講座「コロナ時代の新常識」(全8回)は、7月28日までの毎週木曜日の午後6時半から1時間半、オンラインで配信。受講料1回につき1500円。今後のテーマや講師などの詳細と受講申し込みは、<https://www.highokudai.ac.jp/news/event/1259>を参照。



てしま・たかのり 鳥取県大山町出身。九州大医学部卒。米国留学、九州大病院准教授などを経て、2012年から北大大学院医学研究院教授。北大病院検査・輸血部長も兼任。専門は血液学、造血細胞移植学など。新型コロナの唾液による検査方法を確立し、21年の北海道新聞文化賞(学術部門)を受賞。60歳。

### 豊嶋 崇徳教授

世界的にも、日本の新型コロナ株の移り変わりは欧米とまったく同じです。日本は海外がこれが現実です。変異ウイルスが世界で同時に拡散するのは防ぎようがない、と思つて対策を取ることが重要です。約100年前にパンデミック